

氏名	門 間 文 行		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博乙第1942号		
学位授与の日付	昭和63年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	曝気法における脳浮腫の実験的研究 第1編 局所脳水分量，局所脳血流量および局所神経機能の経時的変化 第2編 メチルプレドニゾロン大量投与の抗脳浮腫作用と局所神経機能障害におよぼす影響		
論文審査委員	教授 大月三郎	教授 堀 泰雄	教授 森 昭胤

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

成猫を用い曝気法により脳浮腫（vasogenic edema）を作成し局所脳水分量，局所脳血流量（ ℓ CBF）の変化が皮質および視床・皮質投射系の局所神経機能におよぼす影響を検討した。

皮質および視床・皮質投射系の電気生理学的活性は曝気6時間以降，視床腹後外側核・視床・皮質投射系近傍の白質，一次知覚運動野皮質でそれぞれ測定した ℓ CBFの減少にともなって低下した。曝気法における脳浮腫では皮質および視床・皮質投射系の神経機能は曝気6時間以降時間の経過とともに障害され，それには， ℓ CBF低下が大きく関与するものと推測された。一方白質浮腫の程度と白質血流低下との間には直線的相関がみられ，ついに視床・皮質投射系の障害をきたす可能性が示唆された。

さらにこの脳浮腫モデルにおいて，メチルプレドニゾロン（MP）大量投与（30mg/kg）は浮腫作成12時間後においても皮質浮腫を抑制し皮質血流を改善する結果，皮質機能の指標である直接皮質反応の抑制を有意に改善した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はネコを用いて曝気法により脳浮腫を作成し，局所脳水分量，局所脳血流量，局所脳神経機能の推移を調べるとともに，これらに対するメチルプレドニゾロンの効果を検討したものである。脳浮腫について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。